

令和6年度

西伊豆町教育委員会
自己点検・評価報告書

令和7年9月

西伊豆町教育委員会

自己点検・評価の考え方

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検・評価を行います。西伊豆町教育委員会では本シートを用いて令和6年度の活動及び施策の自己点検及び評価を行う。本シートでは、教育委員会の責任体制を明確化するため、「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に分けた。「教育委員会の活動」では、教育委員会会議や教育委員研修などの教育委員自身が行っている活動についての点検・評価を行う。「教育委員会が管理・執行する事務」については西伊豆町教育委員会の関連規則に則り、教育委員会が責務を果たすべき事項について自ら点検を行う。「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、「令和6年度西伊豆町教育行政の基本方針」に示されている施策を基に点検・評価を行う。

実現度の見方

- A…達成している(90%以上)
- B…概ね達成している(70%程度)
- C…ほとんど達成できていない(50%程度)
- D…達成していない

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
1 教育委員会の活動	(1)教育委員会会議の運営改善	教育委員会会議の開催回数	A	毎月1回の定例会を予定していましたが、議案等の審議事項がない場合などは開催を見送ったため、定例会10回の開催となりました。会議では規則等の改正のほか、教育行政の基本方針や教育委員の任命、教職員の人事案件など、町の教育の充実に向けた審議が行われました。
		教育委員会会議の運営上の工夫	A	年間予定表を第10回の定例会で配布し、出来る限り全ての委員の方が参加できるように努めました。また、事前配布が可能な案件については、開催通知と合わせて会議資料を配布し、案件に対する理解を深めるように努めました。
	(2)教育委員会会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	教育委員会会議の公開の状況	A	開催告知は、開催日の概ね2週間前までに定例会招集の告示をしました。なお、会議の傍聴者はありませんでした。
		議事録の公開、広報、公聴活動の状況	A	議事録は、定例会開催の概ね10日後までに町のホームページに掲載するよう迅速な対応に努めました。
	(3)教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	A	会議終了後には、県教委や町の動向などの情報提供に努めるとともに懸案事項などについて意見交換を行い、教育委員会と事務局との連携強化を図りました。
	(4)教育委員会と首長の連携	教育委員会と首長との意見交換の実施	A	総合教育会議を2回開催し、首長と教育委員との意見交換が行われました。第1回の会議では、中学生国際交流事業や部活動改革について、第2回の会議では令和7年度西伊豆町教育行政の基本方針（案）、小学校の統合、部活動の地域連携などについて意見交換し、首長と教育委員会との意思疎通が図られました。
	(5)教育委員の自己研鑽	研修会等での自己研鑽	A	第63回静岡県市町教育委員会研修会に委員が参加し、令和7年度の静岡県教育委員会の施策と予算及び不登校の現状と対策についての理解を深めました。
	(6)園・学校及び教育施設に対する支援・条件整備	園・学校訪問	A	教育委員会定例会に合わせて園・学校訪問を実施し、校（園）長から子供の様子や施設の状況などの説明を受けるとともに、仁科小学校では学校給食をいただくなど、教育・保育現場の現状を知る貴重な機会となりました。また、賀茂小学校の統合式及び仁科小学校の入学式、各園の卒園式及び各校の卒業式に出席しました。
		所管施設の訪問	A	教育施設環境の現状把握を目的に園・学校施設の視察を実施しました。社会教育施設については、図書館及び旧田子中学校の文化財展示の視察を実施しました。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価
2 教育委員会が管理・執行する事務	(1)教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関する こと	1 件	令和7年度教育行政の基本方針について、第10回定例会において協議しました。
	(2)教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定及び 廃止に関すること	14 件	条例の改正（1件）、条例の廃止（1件）、規則の制定（2件）、規則の改正（2件） 規程の改正（1件）、要綱の制定（2件）、要綱の改正（3件）、要綱の廃止（2件）
	(3)教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置 及び廃止に関すること	0 件	令和6年度の実績はありません。
	(4)教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育 機関の職員の任免その他人事に関すること （県費負担職員の任免を除く）	4 件	教育委員の任命について、第1回及び第9回定例会において審議し、影山委員、高橋委員の再任が可決されまし た。令和6年度末の学校長等の人事異動の内申について、第9回定例会において審議し、可決されました。また、令 和7年度の教育委員会事務局職員の人事異動について第10回定例会において議案上程し可決されました。
	(5)教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に 関すること	1 件	令和5年度の教育委員会関連事業の自己点検・評価を行い、教育委員会評価委員からの意見と併せて9月の町議会 定例会で報告しました。
	(6)教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を 申し出ること	0 件	議会の議決を経るべき教育予算等について報告し、特に意見の申出はありませんでした。
	(7)県費負担職員のサービスの監督の一般方針を定めること	0 件	令和6年度に方針を定めた実績はありません。
	(8)人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと	0 件	令和6年度に方針及び懲戒を行った実績はありません。
	(9)学校、公民館、図書館の敷地の設定及び変更を決定する こと	0 件	令和6年度の実績はありません。
	(10)教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は 委嘱に関すること	1 件	第1回定例会において社会教育委員会委員の委嘱を行いました。
	(11)通学区域を定めること	0 件	令和6年度の実績はありません。
	(12)校長、教員その他教育職員の研修の一般方針を定める こと		校長研修会 教頭研修会、教科研修会、教務主任研修会、生徒指導研修会、初任者研修、研修主任研修会 特別支 援学級担任者研修会、I C T研修会、県外視察研修、独立行政法人教職員支援機構常葉大学センター研修、こども園 小学校合同研修会、西伊豆町一貫教育研究会等を行いました。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1)確かな学力と自立する力を育む教育	特色ある学習の推進	A	<p>学校経営目標や児童生徒の実態・学力調査結果等に基づき、予算の範囲内で学力向上の対応策や授業力を高めるための研修等を検討し、学校毎に特色ある学校づくりを推進しました。</p> <p>小学校2校において、教育版レゴEV3、コードモンキーなどを活用したプログラミング教育を実施し、プログラミングに関する知識を習得しただけでなく、プログラミングを通して問題解決のための発想力も養われました。</p> <p>また、仁科小学校、賀茂小学校において演劇や音楽鑑賞を実施し芸術に触れる機会を作ったほか、仁科小学校では漢字能力検定の受検など学力向上につなげる取組も実施しました。西伊豆中学校では、プロの和太鼓芸能集団「鼓童」を招き、太鼓の演奏やメンバーとの協演により、本物の芸術に触れる大変良い機会となりました。小学5年生以上の児童も合同で実施しました。また個別の習熟度に応じて問題が変わるA1ドリル「ドリルパーク」を活用し、夏季冬季休暇中の受験対策講座・学力検査を行い、生徒個人に合わせた指導を実施することができました。</p>
		情報教育の推進	A	<p>一人一台のタブレット端末を活用し、学校における授業方法の工夫改善や家庭学習での活用により、充実した学習の実施につながりました。また、個別の習熟度に応じて問題が変わる教材ソフトのA1ドリルを全校に導入するなどタブレット端末を使用した授業の推進を図りました。</p> <p>授業におけるICTの活用を推進するため、ICT活用研修会を開催し、各校における課題の共有を図るとともに、学校情報セキュリティポリシーを策定しました。</p>
		民間連携による学力向上	A	<p>㈱Z会と連携し、各小学校の5年生を対象にZ会が作成した教材を使った国語の授業や日本語運用能力テストなどを実施し、国語力の向上対策に取り組みました。</p>
		国際教育・交流の充実	A	<p>JETプログラム（外国青年招致事業）2人と地域おこし協力隊1人の計3人のALTを任用し、英語教育の充実に努めました。長期休暇には「English summer Camp」を開催し延べ20人の小中学生が参加しました。</p> <p>また、親子英語交流会には3組の親子が参加し、ゾンビゲームや爆弾ゲームといった海外の遊びを通して楽しく英語を学びました。</p> <p>ALTの更なる活用について検討するため、ALT推進委員会を立ち上げ、各校の活用事例や今後の活用の仕方について協議しました。</p> <p>5年ぶりに台湾との交流事業を復活し、中学生5人が台湾屏東県のホストファミリー宅で4日間のホームステイを経験しました。帰国後は校内発表会を開催し、大変有意義な事業を展開できました。</p>
		複式学級への対応	A	<p>児童数の減少に伴い、賀茂小学校の2・3年生と仁科小学校の2・3年生が複式学級となりましたが、標準的な教育水準確保のため、全額町費負担による複式学級補助教員を配置しました。これにより、通常学級とほとんど変わらないきめ細やかな教育が図れました。</p>
		家庭教育の充実	A	<p>子供の健全な育成を行う上で重要な役割を担う家庭教育の充実を図るため、町内の園・小・中では家庭教育学級を設置し、保護者同士が自らできる活動を模索し、企画・立案して計画的・継続的に活動を進めました。教育委員会としては、家庭教育学級への補助金を交付し、支援を行いました。</p>
		総合学習の推進	A	<p>各学校において、学年毎に総合的な学習のテーマを設け、地域に密着した体験や学習を行い、自然や人とふれあい、地域に対する興味や関心など、豊かな感性や自分なりの考えを高め深めることができました。また、郷土に対する愛着心を高めることにつながりました。</p> <p>西伊豆中学校では、松崎高校との連携教育をきっかけに、西豆の2中学校と松崎高校は郷土学習を中心とする共通の学習である「西豆学」を行っています。「西豆を体験しよう（全学年）」と「職場体験（2年生）」は松崎中学校と合同で実施し、1月には松崎高校1・2年生を交えた西豆学中高合同発表会を行いました。</p>

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1)確かな学力と自立する力を育む教育	一貫教育の推進	A	松崎高校と西豆2中学校の『連携型中高一貫教育』では、連携事業を行い、生徒たちが一緒に考え・体験し・協力することで、それぞれが成長することができました。今後ますます少子化が進む中で、松崎高校を存続するには『中高一貫教育』による更なる連携強化が必要です。また、町一貫教育研究会が中心となり、園から中学校までを見据えた子ども子育てのため、研修会など様々な連携事業を行い、つながりをもった教育に寄与しています。町では、平成30年度から松崎高校へ進学する成績優秀者に給付型の奨学金を給付する事業を実施しており、令和6年度には新たに1人を認定し、既存の認定者3人と合わせて4人が給付を受け、松崎高校へ通学しています。
		幼児教育・保育の充実	A	町内の認定こども園では、それぞれの地域の特性を生かした特色ある園の教育目標を持ち、幼児教育のねらいとする「健康・人間関係・環境・言語・表現」や、基本的生活習慣、食育、家庭や地域との連携のほか、一貫性のある幼小接続を目指し、小学校入学までの3年間の教育課程を細分化し、個々の成長に合わせた取組を行いました。また、園外活動により幼児の五感を刺激しながら成長につなげたり、2園の園児交流や小学校児童との交流、ALTによる英語活動の時間を設けるなど、様々な人との関わりを持つことで好奇心等を育むことができました。 令和6年度から両園において保護者による1日保育体験を実施し、66人の保護者の参加がありました。この体験を通じて、我が子の発達やこれからの接し方、保育者の仕事の大変さについての理解を深めていただくことができました。
	(2)規範意識・豊かな心を育む教育	地域環境づくりの推進	A	青少年の健全育成に関する施策の調査審議と行政・関係団体相互の連絡調整を図るため、青少年問題協議会を設置し、2回の会議を開催しました。協議会では、「夏季・冬季の街頭指導」「青少年健全育成標語の募集掲載」などを行い、地域全体で青少年の健全な心身を育む環境づくりに心掛けました。 また、令和4年度から開催している子ども議会は、各小学校5・6年生から議員として6人、賀茂小学校から議長として1人が参加し、町に対して思っている疑問や要望を一般質問形式で町長に投げ掛け、町長が答弁しました。なお、各校の6年生は議場の傍聴席から、5年生はZOOM配信により各学校で傍聴しました。模擬議会の体験を通じて、子供たちが町の課題について自ら考え、主体的に生きるために必要な能力の育成につながりました。
		青少年活動の推進	A	令和3年度から町内開催となったわんぱくクラブでは、昨年度までは西天城高原「牧場の家」に宿泊し実施していましたが、今年度は宇久須キャンプ場のキャンプサイトにテントを張り17人の児童が参加しました（令和5年度は22人）。子どもたちが町の魅力を体験する貴重な機会となりました。 町子ども会球技大会及び郡球技大会は、東伊豆町と南伊豆町以外の子ども会は衰退したため、球技大会は中止となりました。 わくわく体験村子ども体験会は、令和5年度の16人から22人に参加者が増え、町内の海を舞台に「シーカヤック」「SUP体験」「係船釣り」「スノーケリング」の4回の活動を実施しました。
		人材の育成	A	自らボランティアとしての資質や能力を高めようとする中学生が、町内事業所等でボランティア活動を行いました。なお、活動時間が20時間を超えた7人（3年生4人、2年生1人、1年生2人）の生徒が静岡県青少年指導者級別認定を受けました。
		啓発活動の充実	A	町内の小学1年から中学3年までの児童・生徒を対象に、挨拶や人を思いやる心の大切さ、非行防止などについての標語を募集し、広報にしいずに優秀作品を掲載しました。また、広報にしいずに「静岡県青少年の非行・被害防止強調月間」のPRなどを掲載し、子供たちをインターネット利用における犯罪被害等から守るための啓発活動を行いました。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(3)安全・安心を確保し、 健やかな体を育む教育	学校体育、部活動の充実	A	学校体育・部活動に活発に取り組めるよう、部活動での静岡県内の大会参加や練習試合などで生徒を派遣する際の派遣費の補助及びスクールバスの利用により、保護者等の送迎負担の軽減につながりました。
		安全な給食の提供	A	衛生管理マニュアルに基づき衛生管理の徹底を心掛けました。また、食物アレルギー児の代替食の要望については、給食センターの設備等の問題もあり、除去食等安全な給食の提供をできる範囲で対応しました。
		魅力ある給食の提供と食育の推進	A	給食での食育や地産地消を進めるため、毎月1回「ふるさと給食の日」として、また、11月18日～22日の「ふるさと給食週間」において、町内産や県内産の地場産品や郷土料理などを提供し、地域文化や伝統に対する理解と関心を深めました。また、「朝食の大切さ」や「正しい箸の持ち方」の授業を行ったほか、給食の時間に給食ができるまでの作業工程を動画で配信しました。 物価高騰が続く中、給食費の無償化により保護者の経済負担軽減に寄与しました。
		基本的生活習慣の確立	A	各学校において、挨拶をする・時間を守る・バランスのよい食事をとるなど、基本的生活習慣の確立に向け、子供たちに明確な目当てを示し、随時指導を行いました。
		防災教育の推進	A	西伊豆中学校での災害図上訓練「D I G」や避難所運営ゲーム「H U G」、各小学校での災害時判断ゲーム「クロスロード」、各園での動物のイラストを利用した「防災ダック」や職員を対象とした「H U G」の実施など、町内各学校・園で各種防災講座を実施するとともに、仁科小学校では、地域との合同避難訓練を実施し、地域の実状の把握や災害時の対応について、防災意識の向上と防災教育の推進を図りました。
		安全、安心な環境づくり	A	緊急連絡システム（すぐーる）を活用し、町内の各園・学校から保護者へ様々な連絡やアンケートなどを実施しています。また、不審者情報があつた際には、すぐーるによる注意喚起を行いました。 各学校において、毎月職員による学校施設の安全点検を実施するとともに、定期的に業者による遊具点検を実施し、必要に応じて修理、廃棄することにより、常に安全な環境を維持できるよう努めました。 また、賀茂小学校では、放課後学習支援員や遊び見守りボランティアを募り、放課後の子供の居場所づくりを行いました。
	(4)教育環境の整備と 教職員の資質向上	園・学校等の再編	A	田子小学校と賀茂小学校の統廃合により、4月8日に賀茂小学校統合式を挙行了しました。 令和5年度に引き続き、公募による住民参加の「小中学校のあり方を考えるワークショップ」を開催し、まずは今後の小学校のあり方について意見交換を進める予定でしたが、参加者から「ワークショップの開催についての意味がないのではないか」などの意見が出されたことから、ワークショップの継続を問うアンケートを実施したところ、参加者の半数以上がワークショップの終了に賛成という結果となったため、9月をもってワークショップを終了しました。 こども園の建設候補地が決まらない中で、両園のP T Aから11月18日付けで防災シェルターの導入及びこども園建設に関わる切土調査についての要望書が提出されました。11月21日には、議員有志6人から旧西伊豆中学校裏山切土造成の事前調査費用の早期予算措置の要望書が提出されたため、12月定例議会において、伊豆海認定こども園へのシェルター導入費用及び認定こども園建設候補地調査業務委託費用を補正予算計上しました。令和7年3月27日に伊豆海認定こども園にシェルター2基の設置が完了しました。また、12月24日に認定こども園建設候補地調査業務委託を発注し、令和7年度に調査を完了する予定です。なお、仁科認定こども園へのシェルター導入についても引き続き検討していきます。 令和7年2月には、小学2年生以下の保護者を対象に小学校の再編について、今後の複式学級の状況などを説明し意見交換を実施しました。いただいた意見を踏まえ、今後の方向性を検討していきます。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(4)教育環境の整備と教職員の資質向上	老朽施設の修繕整備	A	仁科認定こども園では、園舎空調改修工事、給食室空調設備改修工事、賀茂小学校では、特別教室への空調設置工事、仁科小学校では、特別教室への空調設置工事、体育館の照明LED化工事、高架水槽送水管改修工事、受電設備微量PCB含有機器取替工事、また、西伊豆中学校では、特別教室の空調設備設置工事、特別教室の照明LED化工事、受電設備微量PCB含有機器取替工事などを行いました。今後も児童・生徒の安全に支障をきたすものや緊急性があるものなどについて、計画的な改修及び修繕を進めていきます。
		高等学校生徒等への通学支援	A	昨年度に引き続き、高等学校等へ通学する生徒の保護者等に対し通学費の一部の助成を行い、子供の教育にかかる経済的な負担の軽減に寄与しています。また、令和元年度からは、定期券購入時に助成額を差し引いた金額で定期券を購入できるよう、申請手続の簡素化を図っています。
		特別支援教育の推進と連携	A	特別な支援が必要な子どもに、幼児期から中学校までの一貫した支援を行うため、特別支援教育巡回相談員による巡回相談を町内の園や学校で延べ18回実施しました。特別支援教育連携推進協議会では、園・学校の具体的な取組について情報交換を行いました。また、昨年度に引き続き、園・学校には特別支援員を配置するなど、支援が必要な子供が十分な教育や支援が受けられるように努めました。 令和6年度は、伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校の特別支援教育コーディネーターを招き「障害理解とその支援について」の題目で講演会を実施し、支援のポイントや具体的な支援方法などについて理解を深めました。
		児童・生徒の心のケア・教職員の指導充実	A	不登校児童・生徒に対しては、教職員だけでなくスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが一体となり、保護者も含めた日常的なサポートを行い、学校復帰を後押ししました。また、田子公民館内に開設している適応指導教室（教育支援センター）では、学校とも連携を図りつつ、学校とは違ったアプローチもしながら支援を行い、よりきめ細やかな対応を心掛けました。 令和6年度は、静岡県が令和7年度から運用する静岡バーチャルスクールの試験的運用が行われ、1人の生徒が参加しました。 いじめ問題については、各校から毎月提出される報告で状況把握に努めるとともに、いじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめの現状などについて協議しました。
		教職員の資質向上対策	A	昨年度に引き続き、賀茂地区5町で3人の指導主事を共同設置し、併せて、下田市1人と県1人の指導主事を加えて、広域連携による学校訪問や研修等を行い教職員の資質向上を図ることができました。なお、指導主事共同設置のうち1人が西伊豆町と松崎町の教育委員会事務局に勤務しました。
	(5)生きがい・潤いのある生活を育む文化芸術の振興	生涯学習の充実	B	生涯学習は子供から大人まで多岐にわたり、その要望も多様であるため、町民のニーズに応えるための施設整備や事業選定には難しい面がありますが、毎月発行の「広報にしいず」に、生涯学習事業や新刊図書の紹介のほか、体育及び文化団体の活動内容などを掲載し、会員や参加者の増加に努めましたが、会員は減少を続け、参加者はほぼ横ばいの状態となっています。また、各種事業を行った際は、事後の評価シートを作成した上で事業の検証をしました。
		社会教育施設の整備	B	社会教育施設は、住民の学習活動の拠点となる施設であり、多様化するニーズに対応した整備や改修が必要となっています。各施設ともに年々老朽化が進み、不具合の生じた設備の緊急修繕や消防法に基づく立入検査で指摘された設備の改善などの応急的な維持管理に予算の大半を費やしています。今後は個別施設計画に基づき、利用実績等を考慮した上で、長寿命化や廃止等を含めた管理の見直しを行います。
		芸術文化活動の推進	A	各地域で行われている伝統行事に対し、8団体中活動できた4団体に活動支援として補助金を交付しました。一方で各地区において高齢化や人口減少による後継者不足が課題となっています。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(5)生きがい・潤いのある生活を育む文化芸術の振興	芸術文化団体の育成支援	A	町文化協会が主催する活動への補助及び事務的支援を行いました。令和6年度は文化展の開催のほか、音楽芸能発表会を開催し、コーラス、大正琴、詩吟、舞踊が参加し盛大に行われました。文化協会は、各部で講座を開催するなど、新たな会員確保に努めており、新しく生活芸術の1団体（宇久須生花グループ）が増えるなど、教育委員会としては引き続き会員の確保に向けた支援を行っていきます。
		文化イベントの充実	A	文化講演会は、社会福祉協議会が主催する社会福祉大会と合同で実施し、気象予報士であり防災士でもある天達武史氏から、「気象災害への備え」について講演していただき、約100人の町民が来場しました。また、文化協会主催の文化展及び音楽芸能発表大会は昨年度と同様に開催し、来場者はそれぞれ691人と158人でした。子ども演劇鑑賞教室（町内2小学校持ち回り）は、賀茂小学校において計画どおりに実施することができました。
		図書館利用の促進	A	図書館利用の促進と読書活動の普及のため、館内ポップの工夫や特設コーナー（話題の本・今月の特集）の設置などを行いました。また、利用者の利便性向上を図るため、ボランティアスタッフ2人の協力をいただきながら昼休みの平日開館を実施しました。昼休み時間の利用者数は294人で、昼休みの利用率は平均で約4.9%でした。なお、令和6年度の図書貸出冊数は、8,871冊で令和5年度の10,805冊と比べ1,934冊の減となりました。また、読み聞かせ会は前年6月から毎月1回開催しております。 話題となっている図書や新刊図書を定期的に購入し、図書資料の充実を図りながら令和6年度末現在、25,469冊の蔵書を管理しています。年に1回蔵書整理を行い、図書の入れ替えをしながら、保存期限が過ぎた雑誌や古本等は、広報にしいずに掲載し欲しい方に譲りました。また、他市町の図書館と情報交換を行うとともに、図書等の相互貸借により利用者の利便性向上にも努めました。
		姉妹町との交流促進	A	令和6年度は、体育協会、文化協会、女性会、スポーツ少年団及び5年生交流会を開催することができました。体育協会については、平成29年度に富士見町が来町して以来の交流となり大いに盛り上がりました。なお、富士見高原名勝探訪駅伝大会は開催日が例年と違う日になった関係で参加できませんでした。
	(6)健康な生活を育む生涯スポーツ振興	スポーツ・レクリエーション活動の充実	A	地区対抗球技大会は、前年度から実施しているワンタッチバレーボールを種目として開催し、10チーム155人の参加登録がありました。スポーツ委員会では次年度以降もワンタッチバレーボールで地区の交流を行っていくこととしています。 軽スポーツ教室は、春・秋ともに昨年度に引き続きパラリンピックの正式種目で誰でも参加しやすいスポーツとしてポッチャを取り入れ実施しました。 西伊豆町夕陽の郷マラソン大会は、昨年度の町内参加者が全体の23%程度と少なかったこともあり、令和6年度から中止としました。
		スポーツ施設の整備・充実	B	各スポーツ施設で不具合が生じた設備の緊急修繕や、消防法に基づく立入検査で指摘された設備の改善などを行い、安心して利用できるよう努めました。各施設とも利用者は比較的多いことから、施設の整備や充実を図りたいところですが、老朽化が著しく、維持管理に苦慮しているのが現状です。社会教育施設同様、個別施設計画に基づき、長寿命化や廃止等を含めた管理の見直しを進めていきます。
		指導者の育成・確保	C	スポーツ少年団では、運営する際に認定員等の有資格者が必要となります。令和6年度現在、1団体が指導者2人が有資格者となっています。有資格者の育成・確保という面においては、活動できている団体がバレーボール1団体となっており、大変厳しい状況となっています。今後、松崎町と連携を取りながら子供のスポーツについて取り組んで行く必要があると考えています。また、スポーツの指導者の掘り起こしが必要となりますが、人口減少と高齢化に伴い人材確保が課題となっています。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(6)健康な生活を育む生涯スポーツ振興	組織体制の整備	A	スポーツ推進委員等各団体は、予定していた事業は全て行うことができました。各団体とも町の行事等に積極的に参加、協力し相互の連携を図っています。
		交流推進体制の整備・支援	A	体育協会主催のしずおかスポーツフェスティバルは、前年同様ポッチャを種目として開催し、20チーム募集のところで、一般15チームと小学生1チームの応募があり、48人（R5：36人）の参加がありました。また、体育協会に加入している12団体に対し、大会開催等による活動補助を行いました。
	(7)地域の誇り、郷土の愛着を育む学習・文化財保護	学校と地域の融合促進	A	地域人材を活用し、子供たちの郷土愛と地域とのつながりを育むため、わくわく体験村実行委員会に委託して海の体験活動を実施しました。また、地元遊漁船組合の協力のもと、ツッテ西伊豆を活用した小学生向け教育事業として、親子漁師体験を開催しました。
		文化財の保護・保存	A	文化財保護法に基づき、県教育委員会と連携しながら、名勝伊豆西南海岸の景観保護に努めました。 （現状変更申請：25件、期間変更届：2件、許可通知：27件、終了届：21件）
		文化財等の活用	A	民俗文化財等の貴重な財産を町民に知ってもらうため、今年度も文化財展示会を開催しました。今年度は、新たに県の無形民俗文化財に登録されている人形三番叟を紹介する部屋を設けたほか、今昔写真を展示する理科室の改修及び展示用常設の写真展示室とし、198人の来場者がありました。また、町内の小学3年生や仁科小6年生の社会科見学も開催しました。
		文化財保護思想の普及	A	旧田子中学校に展示してある民俗文化財等の整理を進め、11月の文化財保護強調週間に展示会を開催し、町民の文化財への関心を深めました。また、1月には町内小学校3年生を対象に、また2月には仁科小学校6年生を対象に社会科見学を行い、子供たちに昔の町の様子を知ってもらう良い機会を提供できました。
		男女共同参画への意識改革	C	令和5年度に「西伊豆町男女共同参画推進プラン」の見直しを行い、令和10年度までの5年計画を策定しました。具体的な行動としては、6月末の男女共同参画週間について、広報にしいずへ記事を掲載し啓発に努めましたが、計画の推進に向けた庁内の担当部署間の密な連携を図ることができませんでした。
		女性団体への支援・育成	B	女性会への活動に対する補助及び支援を行いました。現在、女性会は仁科地区と安良里地区の2団体となり、両団体への負担が更に大きくなっていることもあり、それぞれ役員を引き受けてくれる人が見つからず、今後の会の存続が危ぶまれている状況です。 なお、令和6年度は、女性会の姉妹町交流として富士見町から12人の代表者が来町し、情報交換を行いました。

大項目	中 項 目	小 項 目	点 検 ・ 評 価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(8)子育て支援の充実、子どもの居場所づくり	幼児期における子育て支援	A	<p>子育て支援センターでは、育児や家庭環境に対する不安や悩みを抱える保護者が増え、相談内容も多様化している中、開所している意義は非常に大きく2施設で年間延べ496日開所し、1,484人の利用がありました。土曜日は隔週で開所しましたが、少子化と保育料無償化に伴う入園の早期化により対象児童が減っていることから、昨年度に比べ利用者が447人減少している状況です。</p> <p>子育て支援センターでは、毎月開催する会議の中で様々な意見交換を行い、子育て支援の早期対応に心掛けたほか、町内全ての未就園児の把握に努め、家庭訪問や手紙に加えSNS（LINE）を活用して情報提供をするなど、利用促進を図っています。</p> <p>また、こども園においては、特別支援コーディネーターの配置により、発育などの相談窓口となっているほか、町の巡回相談員の子育てアドバイスのコラムを園だよりに掲載するなど子育て支援につなげる取組も実施しています。</p>
		小学校における子育て支援	A	<p>仁科小学校において放課後児童クラブを287日開所し、多くの児童を受け入れました。学童保育時間が長く、人数も増える長期休業中には支援員を3人体制とし、見守りや支援を必要とする児童にも対応しました。</p> <p>登録人数は40人（仁科小学校30人、賀茂小学校10人）で、延べ1,925人の利用がありました。土曜日や長期休業期間も含めた平均利用人数は6.71人となりました。1日あたりの最大利用人数は、平日で13人、長期休業期間は20人の利用がありました。賀茂小学校区への設置要望もありますが、人員確保やスペースの問題もあり、設置は難しい状況にあります。このような状況を踏まえて、賀茂小学校の児童も利用しやすくなるようにスクールバスを運行しました。</p> <p>また、月に1度は支援員会議で情報共有を行い、利用しやすい児童クラブの運営を心掛けました。</p>

自己点検全体評価

令和6年度西伊豆町教育委員会の自己点検につきまして、次のとおり報告します。

1 教育委員会の活動

定例会においては、活発な意見交換や情報共有が図られるとともに、議案の円滑な審議が行われ引き続き良好な委員会運営が図られました。また、総合教育会議では、町教育行政の課題について首長と率直な意見交換が行われ、相互理解と共通認識が図られました。

2 教育委員会が管理・執行する事務

事務処理については、漏れや遅滞がないように心掛けており、適正に処理できたと考えています。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

「西伊豆町教育大綱」及び「西伊豆町教育行政の基本方針」に基づき事務・事業を執行しました。

4月8日に賀茂小学校統合式を挙行し、新たな賀茂小学校がスタートしました。

昨年度に引き続き、「小学校のあり方を考えるワークショップ」を開催しましたが、第5回のワークショップにおいて、ワークショップ参加者から解散を問う意見があり、参加者へのアンケートの結果、ワークショップは解散することになりました。

令和6年3月に文教施設整備委員会から答申のあった、認定こども園建設第一候補地の安良里中田避難地付近の調査費用を7月25日に開催された臨時議会において、補正予算（第5号）に計上し、議会に上程しましたが、修正動議により予算可決には至りませんでした。

また、令和6年11月18日には、仁科・伊豆海の両認定こども園PTAから「こども園建設に関わる切土調査（仁科小学校から旧西伊豆中の裏山を切土する案について建設可能ならばそこに建設してほしい）」及び防災シェルターの導入について要望書が提出されました。これを受け、伊豆海認定こども園に防災シェルター2基を設置するとともに、補正予算（第10号）に認定こども園建設候補地調査業務委託の予算を上程し、調査業務を発注しました。

学校教育関連では、給食費の全額補助、高校生通学費助成や松崎高校給付型奨学金の支給など、子どもの教育にかかる保護者の経済的な負担を軽減するための施策に取り組みました。また、1人1台のタブレット端末を活用し、小中学校でのICT機器を活用した学習の充実を図りました。中学生を対象とした国際交流事業は、5年ぶりに台湾との交流事業を復活することができ、5人の生徒が台湾のホストファミリー宅で4日間のホームステイを経験しました。帰国後は校内発表会を開催し、大変有意義な事業を展開できました。子育て支援、防災教育、不登校対策、複式学級対策、特色ある教育の推進などの西伊豆町独自の事業推進にも引き続き積極的に取り組みました。

社会教育関連では、既存事業を検証しながらより効果的な事業となるように改善を図るとともに、町民まちあるき、わくわく体験村、わんぱくクラブ、親子漁師体験、文化講演会など各種事業を実施しました。夕陽の郷マラソン大会については、参加者の低迷により、事業を廃止しました。

文化財保護審議会では、昨年度に引き続き旧田子中学校において、文化財展示会を開催し、文化財の積極的な活用を図るとともに、町民の文化財への関

心を深めました。参加者から大変好評な意見を多数いただき、次年度につながる取組となりました。また、町内小学校3年生や仁科小学校6年生を対象に社会科見学として受入れ、昔の文化に触れていただきました。

課題としては、少子化・高齢化が急激に進む中で各種年齢層のニーズをしっかりと把握し、新たな事業展開を模索する必要があると考えています。また、当町が直面する様々な課題への柔軟な対応も不可欠ですが、限られた予算の中でより教育効果を高めるための工夫・改善を図る必要があると考えています。

全体として、認定こども園の移転については、1年間停滞となってしまいましたが、伊豆海認定こども園への防災シェルター設置については成果として挙げられたと考えています。引き続き、これからの認定こども園・小中学校のあり方について、将来を見通した西伊豆町の教育のあり方を検討していきます。

評価委員による意見

西伊豆町教育委員会の自己点検・評価に対する評価委員による知見の活用は、4人の方をお願いすることとした。
様々な御意見、御助言をいただいた評価委員の方々のお名前は、次のとおりである。

氏 名	所 属 等
斎 藤 良 久	学識経験者
長 島 田 鶴 子	学識経験者
藤 井 美 貴	保護者代表
鈴 木 ゆ き み	賀茂小学校長（学校代表）

西伊豆町教育委員会の自己点検・評価に対する意見

○全体として

- ・昨年B評価だったものがA評価になっているのを見ると、昨年度のこの評価会議の意見等が反映されていると実感でき、とても感謝していると同時に真摯に今年も評価していきたいと思った次第です。
- ・少子高齢化地域なので何をするにも創意工夫をしなければならないと思うが、よくやっていると思います。
- ・人生学び場という向上心を持った人づくりに力を貸し続けてください。
- ・教育委員会が多くの業務を請け負い大変な中でも、試行錯誤しながらより良くしていこうと取り組んでくださっていることがよくわかります。
- ・幅広い年代、ニーズに寄り添っていくことは大変だと思いますが、ねらいを明確にして進めていただけたらと思います。

○教育委員会の活動

- ・教育委員と事務局、教育委員と首長等の関係性はとても良好だと感じる。これは事務局と教育長の丁寧な対応があつてのことと考察できる。
ともすると、教育委員の会合は連絡・報告が質疑の多くをさくことも考えられるが、会議回数の精査や資料の取扱い等の工夫によってより効果的に質疑を進めていこうという姿勢を評価したい。また、昨年はB評価だった社会教育関係の評価も旧田子中学校展示室の視察等積極的に取り組んでいただいたことも評価したい。更にもう1つ、令和6年度の教職員研修内容は昨年度より多く実施され、現場の職員への配慮がなされていることも評価に値する。
- ・昨年度のアドバイスを活かして活動したと感じます。
- ・首長との意見交換の場をはじめ、定例会等における情報共有等を組織的行ったり、研修会への参加で自己研鑽に努め力量を高めたりすること

で組織力の向上につながっていると感じます。

○教育委員会が管理・執行する事務

- ・特色ある学習の推進で実施された「鼓童」の連続開催は、本物の芸術鑑賞に触れるという点でさらに深みを持たせられたのではないかと感じた。
- ・複式学級の町費全額負担の対応は、とても素晴らしいと思う。現場はとても助かっているはずである。その更なる有効活用も模索していったほしい。
- ・地域人材の活用は、西伊豆町も探せば豊富にいるのではないと思う。可能であれば地域おこし協力隊の方々や、その任期が過ぎてもまだ西伊豆町に在住されている方などもリストアップすると総合学習に役立つかもしれません。もっとレアな視点では、YouTube に投稿している西伊豆に移住された方々なども違ったふるさと再発見視点として利用できないであろうか。
- ・一貫教育の推進では、サテライト構想による松崎高校分校化の一環とした Web 授業について、生徒・保護者はどう思っているのだろう。このまま進んでいくと、将来受験する中学生は「だったらもっと多くの生徒がいる田方・沼津・三島の高校へ進もう。」ということにつながらないだろうか。
- ・青少年の推進では、募集する年代の数や内容の憂慮だけでなく、その行事をサポートしてくれる中・高生を育成し、幼から高まで繋がった人間関係を作っていくことも 1 つの方向性として考えられるのではないだろうか。
- ・図書館の件だが、県立図書館・伊東市・下田市の移転建て替え問題を見ると、住民は図書館に対してあまり必要度は高く求めているような気がする。一貫校ができてその 1 階部分でも町民・児童・生徒の共用の図書館を作ろうということとなれば話は別だが、それらも含めて図書館の充実にかかる費用増額はとても難しい課題がたくさんあると思う。
- ・健全な生活を育む生涯スポーツ振興では、昔のように地域を巻き込んだスポーツ大会の開催などとても難しい状況にあると思う。地区バレーぐらいがかろうじて残っているのではないだろうか？数少ない対象若者層にどんなスポーツが好まれているのかその実態を知りたい。この方々も含め、町民全体で「自分がやるスポーツ」だけでなく、「自分が見て体感するスポーツ」とした観戦事業の充実も新たな生涯スポーツ振興とはならないだろうか？その面からして、令和 6 年度にまちづくり戦略課が実施してきたバレー・バスケ・ラグビー観戦とリンクして教委も一枚絡んでいくことも必要ではないだろうか。
- ・タブレットやパソコンの活用は、これからを生きる子供たちにとって欠かせないが、文字離れやきれいな日本語教育も大切にしてほしい。
- ・こども園建設候補地見直し。またか…と残念に思いました。

○教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

- ・旧田子中学校の文化財展示は、文化財審議委員のご配慮でとても見やすくなりました。また、3・6年生も社会科見学で活用してくれたと聞き、とてもいい取組だと思います。「ふるさと」を教育行政の基本方針にしている以上、その原点である文化財資料を一見することはとても価値のあるものとして評価できます。ぜひ続けていってほしいことだと思います。
- ・特色ある学習の推進をはじめ、園や学校教育へのご支援をいただき感謝いたします。
- ・豊かな心を育む教育では、社会教育を中心に様々な企画運営が行われていますが、少子化の中でどれくらいの人数を見込んで運営していくのか、やらせたい気持ちはいっぱいですが、今後への見通しも大切になってくると思います。
- ・安全安心に向けた取組につきましては、引き続き優先的にお願いしたいです。
- ・スクールバスの運用も整ってきて大変ありがたいです。